

「NEW GENERATION WAVE」



2008年以来の栄冠！ #35



いよいよトップが見えてきた #13



タイトル争いを見事に演出 #410



わずか1P差に泣く… #100



こちらもポテンシャルは上がってきた #5

3月に開幕したK耐久東海シリーズ2014も、あっという間に今シーズンの最終戦を迎えた。すべてのクラスでこの最終戦で年間チャンピオンが決まるという混戦の中、いったいどれだけのストーリーが記されるのか…

師走がそこまで来ているというのに、前日の雨が上がった西浦には春のような日が差し込み、汗ばむほどの陽気。これも各チームが呼び込んだ熱気のなせる業か！

「KNN」クラス（軽NAのノーマルクラス）

今回も前回に続き二けた10台の参加者が集まったKNNクラス、気が付けばK耐久一の人気クラスになった。旧規格のビート&トゥデイ VS 新規格アルトという図式が鮮明に。年間タイトルはここまでシリーズを引っ張ってきた#100「HAC もらいものビート」が2位#35「JKレーシングユーロビート」に9P差をつけているが、4時間戦で今季初勝利の#35は上り調子、この2強の決着が注目だ。

■予選

予選トップは第3戦で優勝を飾っている、#410「ACRS Today」が1'08.528。シリーズ2位につける#35「JKレーシングユーロビート」は1'09.427で2位。3番手にランキング首位を行く#100「HAC もらいものビート」1'11.059と、チャンピオン争いの2台はこの位置からのスタート。

4位には#95「KHKアルト」1'11.495で新規格勢のトップ、5位#13「愛知工科大学アルト」が1'11.216を記録。前週の練習が生きたか第4戦より大幅タイムアップ。6位#28「LIMITLINE ヴィヴィオ」がこちらもタイムアップ1'13.201、7位は本来のクラスに戻った#5「PROJECT Kアルト」1'13.782、8位#86「Today HFracing」1'14.485、9位のこちらは愛知工業大学の#411「愛知工業大学ルブロスヴィヴィオ」が初参加で1'31.798、10位はこちらも初参加#88「おんぼろ Today」1'43.409。

■序盤

まず序盤でペースをつかんだのは#35「JKレーシングユーロビート」、スタートから首位に立つと第一ステイント首位をキープ…と第4戦のリポート見るようだ。2番手には#410「ACRS Today」がつけ、く#100「HAC もらいものビート」は3番手、この順位ならチャンピオンは#100の手に。9Pの差はそれだけの差がある。

4位は#13「愛知工科大学アルト」、5位#86「Today HFracing」と続く。さらに6位に#5「PROJECT Kアルト」、7位#28「LIMITLINE ヴィヴィオ」、8位#411「愛知工業大学ルブロスヴィヴィオ」、9位#95「KHKアルト」となっている。

初参加のもう一つの大学生チーム#411は自分のペースを掴みつつあるが、予選4番手の#95は今一つペースが伸びない。さらに#88「おんぼろ Today」はピットスタートを選択したが、マシントラブルからいまだピットの入り調整を続けている。

開始一時間を過ぎる頃、他クラスでのクラッシュのため赤旗中断となるが、このクラスには大きな波乱はないようだ。

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■中盤

中盤戦もトップを走るのは#35「JKレーシングユーロビート」、タイトルを手にするにはまず優勝との意気込みで激走を続ける。それを追いかけるのは#410「ACRS Today」で、3番手には#13「愛知工科大学アルト」が上がってきた。#100「HAC もらいものビート」は4番手、このままだとタイトルは#35に！最終戦に波乱を呼ぶか。

5番手は#5「PROJECT K アルト」、6番手#86「Today HFracing」、7番手#28「LIMITLINE ヴィヴィオ」、8番手#95「KHK アルト」、9番手#411「愛知工業大学ルブロスヴィヴィオ」というオーダー。#88「おんぼろ Today」は、一旦コースに出たもののまたピットに入りマシンの修復を試みる。

#410「ACRS Today」と#13「愛知工科大学アルト」に要注目、速さで上位をかき回しチャンピオン争いのキーとなるかも。

■終盤

晩秋の西浦とは思えない日差しの中、残り1時間少々各車はスパートに入る。#35「JKレーシングユーロビート」は後続に4Lapほどの差をつけて首位を堅持。#410「ACRS Today」も2位をキープ。注目の3位は#13「愛知工科大学アルト」！4位は1Lap差で#100「HAC もらいものビート」・・・#100にとってはきびしい展開に。

5番手#5「PROJECT K アルト」も一発の速さはないが、周回数を稼いできている。6番手は#28「LIMITLINE ヴィヴィオ」、ヴィヴィオ使いの先輩としては負けられない。7番手#86「Today HFracing」、8番手#95「KHK アルト」、9番手は#411「愛知工業大学ルブロスヴィヴィオ」。#88「おんぼろ Today」は何とかコースに出たいところ。



今回はビストロのほう #28



5ドアトウディで100Lap #86



最速Lapは10秒台をマーク #95



もう一台の学生チームも見事完走 #411



もう少し元気に走る姿が見たかった #88



晩秋の西浦は紅葉も美しい



■最終結果

最後までトップを守り切った、というより攻めきった#35「JKレーシングユーロビート」が20キロのウエイトをはねのけ2連勝！タイトルゆくのへが気になる。2位は#13「愛知工科大学アルト」が自己最高位をゲット。注目の3位は#410「ACRS Today」。第3戦の優勝に続き、今季2回目の表彰台。そして#100「HAC もらいものビート」は終盤伸びず4位。5位#5「PROJECT K アルト」、6位#28「LIMITLINE ヴィヴィオ」、7位#86「Today HF racing」、8位#95「KHK アルト」、9位#411「愛知工業大学ルブロスヴィヴィオ」までが完走。最後に何とか3Lapを走った出た#88「おんぼろ Today」も頑張った。

■総評

この結果年間タイトルは逆転で#35「JKレーシングユーロビート」のものに。1P差で涙をのんだ#100「HAC もらいものビート」は2011年以来の戴冠ならず。

一方このところ速さを増している新規格勢、ついにトップと1Lap差の2位に上ってきた。一発の速さはいまだ旧規格に分があるが、ポテンシャルはアップしてきておりいよいよ上位を狙えるようになってきた。

とりあえずのところアルトが新規格の主流だが、ノウハウの蓄積も順調のようであるシーズンへの期待が高まる。

また、学生さんたちの健闘も光った今シーズンということを最後に記して、しばしのオフシーズンに入る。



2014シーズン表彰



#35 勝ったぜ！！
#100 くやしいー！！

いいもんね！オイルはまたもらっていくから！！ ナント今シーズン4缶目！！





学生チームの優勝も初！ #16

KNCクラス（軽NAのクロードクラス）

全7チームが出場したこのクラス、年間タイトル争いは同クラスシリーズ4連覇という偉業を達成する#25「アカミネコマル2トゥディ」が、2位の#66「SCCVトゥディ」に16Pの差をつけて最終戦を迎える。

ここまで優勝か2位かを続けてきている#25「アカミネコマル2トゥディ」だが、リタイヤ無得点という最悪の事態は避けなくてはならない、一方逆転タイトルを狙うには勝利が絶対条件の#66「SCCVトゥディ」。さらに3戦ぶりの出場となる#60「明智自動車スペシャルトゥディ」らの強豪に加え、前戦で新規格アルト(NA660仕様)で2位表彰台を獲得した#16「愛知工科大アルトスペシャル」も注目。ちなみに連勝中の#25、ウエイトハンデは40キロ。

■予選

予選のトップは#60「明智自動車スペシャルトゥディ」が1'07.333で獲得。2位に#16「愛知工科大アルトスペシャル」1'07.543、3位#25「アカミネコマル2トゥディ」1'07.0927というトップ3。それに続き#41「まっかなバラードトゥディ」1'08.189が4位、5位には#51「キヤドカーズエッセ by 若人組」1'09.399、6位#66「SCCVトゥディ」1'10.104、7位#55「志らはビート」1'12.675という順にスタートとなった。

■序盤

最初のスティントは#60「明智自動車スペシャルトゥディ」がトップをキープ、#25「アカミネコマル2トゥディ」が2位、3位には#16「愛知工科大アルトスペシャル」。4位に#41「まっかなバラードトゥディ」、タイトル争いをする#66「SCCVトゥディ」は5位、6位#55「志らはビート」、7位#51「キヤドカーズエッセ by 若人組」。まだ序盤だが、#66「SCCVトゥディ」は遅れは許されない。

■中盤

序盤のピットストップが終わり中盤戦となってトップに立ったのは、#16「愛知工科大アルトスペシャル」前戦に続き新規格アルトがトップを快走。このマシンはNA660シリーズ仕様のため、KNC規定と比べ有利な点も多いが、それでも新規格車のポテンシャルを証明している。2位には#66「SCCVトゥディ」があがる、ピット戦略も駆使しながらなんとかトップにくらいつきたい。

3位走行は#51「キヤドカーズエッセ by 若人組」でこちらも新規格車。4位#41「まっかなバラードトゥディ」、5位#60「明智自動車スペシャルトゥディ」、6位#25「アカミネコマル2トゥディ」、7位#55「志らはビート」。

中盤戦は各チームのピット戦略の違いもあり順位が目まぐるしく変わり、目が離せない展開。

■終盤

終盤では#16「愛知工科大アルトスペシャル」がじわじわと差を広げる。追いつがるのは#41「まっかなバラードトゥディ」、#60「明智自動車スペシャルトゥディ」あたりか。タイトル争いの2台は#25「アカミネコマル2トゥディ」はイエロー追い越しなどもあり、#66「SCCVトゥディ」ともに中団を走行。後方となった#55「志らはビート」も上位進出をかけてねばり強い走行。

このままいけば、#25「アカミネコマル2トゥディ」の4連覇が濃厚となってきたが、ポディウムフィニッシュで花を添えることができるか。



3連続表彰台 もう一段上を狙いたい #41



こちらは今季3回目の表彰台 #60



前人未到のV4！ 来季は？ #25



エッセも速くなってきた #51

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■最終結果

結局最後までトップを守り切った#16「愛知工科大アルトスペシャル」が初優勝。このクラスの新規格車の勝利も2013年の開幕戦以来のこととなった。2位には#41「まっかなバラードトゥディ」が入り、第3戦から連続で表彰台を獲得。3位には同Lapで#60「明智自動車スペシャルトゥディ」、こちらも第2戦以来の表彰台。そして4位に#25「アカミネコマル2トゥディ」で連続表彰台は途切れたものの、シリーズ4連覇の偉業を達成。

5位には#51「キャドカーズエッセ by 若人組」、6位には逆転タイトルを狙った#66「SCCVトゥディ」。7位#55「志らはビート」という最終成績。

■総評

40キロのハンデはさすがにきつく、4位どまりとなった#25だが、見事な強さで4連覇を達成。しかしその#25ですら新規格NA660車の速さは驚くべきレベルと語る。実際レース中のファステストLapは06秒台に入れ、クラス最速。繰り返すことになるがこのマシンはこのマシンは東海シリーズKNC規定よりもエアクリーナなど有利な点が多い東北NA660規定である(参加を促す措置でもある)がHAアルトバンの優れた資質は証明された格好。

とはいっても熟成されたトゥディたちの速さ、強さも健在であり、結果としてシリーズを盛り上げたことは、アルトを駆った学生さんたちや先生方の取り組みとして評価されるべきもので、来季のシリーズの更なる盛り上がりを期待したい。



一步及ばなかったが第2戦の優勝は見事 #66



孤軍奮闘ビート #55



2014 シリーズ表彰



V4 は記録にも記憶にも残る





キーマンどころか 2 連勝！ #223



第 3 戦の 0 ポイントが… #38



コンスタントなポイントで栄冠に！ #36



ビートも侮れない戦闘力 #910



もうガチャピン以外には見えない #34

KNOクラス（軽NAのオープンクラス）

このクラスもシリーズ争いが白熱。優勝こそないものの堅実にポイントを獲得している#36「JKレーシングユーロトゥディ」がランクトップ。2勝をあげながらもリタイヤもある#38「デモリッションエグゼットゥディ」が 7P 差で追う。数字上はチャンスのある#23「ミニトゥディ」は欠場で上位 2 チームのタイトル争い。

シリーズをかき回したい、#223「ドオニモトマラナイリンダ JB4」がカギを握るか。

■予選

予選トップは#223「ドオニモトマラナイリンダ JB4」1' 04.590、20 キロのウエイトを積みながら全体の 3 番目を獲得。2 位は#36「JKレーシングユーロトゥディ」で 1' 05.458、3 位は#910「CRAZYレーシングビート」1' 05.837、4 位#38「デモリッションエグゼットゥディ」1' 05.965、5 位#34「JKガチャピントゥディ」1' 07.006。

最後尾は初参加の#20「ミラ L700V-ASPECT」、地元のヤングチーム。「駐車場から持ってきたので…」とチーム監督が言うこのマシンは、本来 KNN 相当だが、エアクリナーのノーマル部品がないため KNO となっている。予選はトラブルでタイム計測はなく慣熟走行のみとなったが無事出走。

■序盤

まずトップに立ったのは、#36「JKレーシングユーロトゥディ」で、がピタリとマーク。最初のステントからはやくもヒートアップ。

#34「JKガチャピントゥディ」が 3 位につけ、#910「CRAZYレーシングビート」が 4 位、ちょっと下がった#223「ドオニモトマラナイリンダ JB4」が 5 位、6 位の#20「ミラ L700V-ASPECT」も順調に走り出した。

■中盤

レースは中盤に入って動き出す。トップを奪取したのは#38「デモリッションエグゼットゥディ」！じわじわと順位を上げた#910「CRAZYレーシングビート」が 2 位、#223「ドオニモトマラナイリンダ JB4」も 3 位となり、#36「JKレーシングユーロトゥディ」はいったん下位に。タイトル争いの 2 台の動きは対照的。各チームのピット戦略は違い、ライバルチームの動向を見ながらのレース運び。

#34「JKガチャピントゥディ」は 5 位、#20「ミラ L700V-ASPECT」も自身のペースを見出したようだ。

■終盤

さあ勝負の終盤戦、ピット戦略で一時的に#910「CRAZYレーシングビート」が首位を走行するが、先頭争いは#38「デモリッションエグゼットゥディ」と#223「ドオニモトマラナイリンダ JB4」。先行していた#38 を#223 がぐいぐい追いつける。#36「JKレーシングユーロトゥディ」も 1Lap のギャップで追ってきている。

タイトル争い的には、#38 が勝利すれば、#36 が 3 位以下なら逆転。#38 が 2 位なら、#36 は 4 位以上なら逃げ切り。どちらにしてもリタイヤは厳禁。

終盤に入る時点では、#38 が首位、間に#223 が入り、#38 が 3 位なので、タイトルは#38「デモリッションエグゼットゥディ」のものになるが…

Race Report

■最終結果

残り 30 分少々といったところで、ついに#223「ドオニモトラナイリダ JB4」がトップに立つ。#38「デモリッションエグゼトウディ」は 2 位に後退、結局最後まで再逆転はならず。25 秒差で#223「ドオニモトラナイリダ JB4」が連勝。3 位には#36「JK レーシングユーロウディ」が入った。

4 位は途中トップにも立った#910「CRAZY レーシングビート」、5 位#34「JK ガチャピントウディ」、KNN 相当ながら規定周回数をクリアした#20「ミラ L700V-ASPECT」が 7 位完走という結果。

■総評

この結果年間チャンピオンは#36「JK レーシングユーロウディ」！#38「デモリッションエグゼトウディ」は逆転ならず。仮に#38 が優勝だった場合はポイント的には同点ながら優勝回数が多い#38 に栄冠が…惜しい最終戦ではあったが何れにしても白熱した良い戦いだっただ。

#36「JK レーシングユーロウディ」は一回も優勝せずに、まさに堅実な走りチャンピオンという渋い記録を打ち立てた、これまたお見事。

終盤 2 連勝というどうにも止まらない勢いを見せた#223「ドオニモトラナイリダ JB4」も印象に残った。

また、初めての出場となった#20「ミラ L700V-ASPECT」、KNN 相当というマシンではあったが、全員でしっかりとゴールまでマシンを運ぶという耐久の精神が活きたよいレースを見せてくれた。来年もまっています！



見事完走！お疲れさまでした #20



チームワークで頑張った



2014 シリーズ表彰





やったぜミラ初優勝！！ #330

KTCクラス（軽過給機のクローズドクラス）

ラウンドごとに勝者が変わるこのクラス、最終戦は5台がエントリー。ランキング的には#93「藤枝マリンダイビングアルト」が2位以下に9Pの差をつけており、表彰台以上なら文句なしにチャンピオンという状況。

追いかけるチームは#717「Team Jatsun アルト」と#112「白須賀会カプチーノ」。この最終戦にはそのほかにも、前戦で3位の#330「DIXCEL コンパノ ミラ」、久々の出場でマシンをビストロからRX-Rに変更した#44「館山寺近藤板金ヴィヴィオ」と、なかなかバラエティに富んだ構成。

■予選

まず予選は、#44「館山寺近藤板金ヴィヴィオ」が1'06.502でトップ。2位は#93「藤枝マリンダイビングアルト」1'06.744、3位は#717「Team Jatsun アルト」1'07.019、4位は#330「DIXCEL コンパノ ミラ」1'07.487、5位は#112「白須賀会カプチーノ」1'08.272。

4気筒スーパーチャージャー、3気筒ターボ、FRなど様々な個性のマシンが揃うのがこのクラスの魅力。どこが勝つか予想がつかない。5台のバトルが始まる。

■序盤

まず最初のステントでは、#44「館山寺近藤板金ヴィヴィオ」がトップをキープ。それに続くのは#93「藤枝マリンダイビングアルト」とほぼ予選通りのオーダーだが、レース開始30分ほどで、上位を走っていた#717「Team Jatsun アルト」がターン5で姿勢を崩し、大きくコースアウト、赤旗中断となる。

一旦全車がホームストレート上で待機。順位的には3位#330「DIXCEL コンパノ ミラ」、4位#112「白須賀会カプチーノ」。約20分のインターバルを置いてレース再開となる。

■中盤

レース再開後の中盤でトップを奪ったのは#330「DIXCEL コンパノ ミラ」。ベテランには懐かしい響きのエントリー名を持つL700はなかなかの速さを発揮、新規格ターボとして要注目のマシンが初のクラストップを走行。

それを追うのが#44「館山寺近藤板金ヴィヴィオ」、#112「白須賀会カプチーノ」でこのあたりはほとんど差がない。ポイントリーダーの#93「藤枝マリンダイビングアルト」は4位、ここからまだまだ巻き返しを狙う。

■終盤

終盤に入ってもトップを守る#330「DIXCEL コンパノ ミラ」、2位には実力のある#93「藤枝マリンダイビングアルト」がやはり上がってくる。

年間シリーズ的にはこのままいけば#93「藤枝マリンダイビングアルト」のものになるが、そうはさせまいと#112「白須賀会カプチーノ」は追い上げを図る。まずは3位の#44「館山寺近藤板金ヴィヴィオ」に追いつきたいところだ。

2時間時点での周回数はトップの#330が74Lap、2位の#93が73Lap、3位の#44が72Lap、4位の#112は71Lapと、トップから4位まで3Lapという僅差のレース。各チームともあと一回程度のピットストップを予定しており、最終ステントでの勝負となる。



全戦表彰台で初タイトルに花をそえた #93



シーズン初出場で3位 #44



1勝&シリーズ2位はお見事 #112

Race Report

■最終結果

結局#330「DIXCEL コンパノ ミラ」が 114Lap で初優勝！#330 はカプチーノ時代の昨年の第 4 戦以来の美酒を味わう。このクラスでのミラはもちろん初優勝、新規格車としては第 2 戦の#717 アルトワークスに続き今シーズン 2 回目。

2 位は#93「藤枝マリンダイビングアルト」が入り、見事シリーズチャンピオンに！第 3 戦では優勝、それ以外でも確実に表彰台をモノにしての初戴冠、安定した走りはチャンピオンにふさわしいものだった。

3 位には久々出場の#44「館山寺近藤板金ヴィヴィオ」が表彰台の一角に。そして 4 位は#112「白須賀会カプチーノ」、開幕戦での優勝などもあり、シリーズは 2 位に食い込んだ。

■総評

これですべてのラウンドで勝者が違うという現象は継続された。そのなかでシリーズの流れをうまくつかんだ#93「藤枝マリンダイビングアルト」が初チャンピオンになったが、新規格車の勝利は 2 回。今回初優勝の#330 ミラターボ、また今回は残念な結果となった#717 だが、ともに KTC にあらたな歴史を刻んだことには違いない。

個性的な車種が揃い、どんなマシンでも勝負のチャンスがある KTC クラス。来年もさらにさらにアツい戦いを期待したい。



復活を期待します #717



マシンのサイドには spa(温泉)って書いてある



レース終了後には意見交換会が催された



暴れまくって初チャンピオン！ #32

KTOクラス（軽過給機のオープンクラス）

最終戦を迎えてのポイント争いは、悲願の初チャンピオンを狙う#32「爆走あばれ馬ミニカ」と、2012年以来の王座奪回に燃える#210「ZEST ルブロスアルト」のポイントが5P。さらに15P差でランキング3位の#12「KC テクニカアルトバンターボ」にも、数字上はチャンスがある。2勝をあげた#32と1勝ずつの#210と#12という実力伯仲の戦いに期待したい。

最終戦はそれらに加え、ポテンシャルをあげてきた#101「BC工房カプチャーノ」も参加し計4台で争われる。

■予選

予選でぶっちぎりの速さを見せたのは#101「BC工房カプチャーノ」、1'02.481と2位以下を1.6秒以上引き離し全体のPPを獲得。第4戦でもその速さには定評があったがいよいよ本領を発揮。2位にはチャンピオンを狙う#32「爆走あばれ馬ミニカ」1'04.133、こちらも速さでは文句ないレベルでこの2台がフロントロー。

3位は#210「ZEST ルブロスアルト」、1'04.974と4秒台に入れ斜め前のライバルを見据える。4番手はマシントラブルか？#12「KC テクニカアルトバンターボ」が1'31.039と下位に沈む。ここからの巻き返しはいかに。

■序盤

序盤からスパートは#101「BC工房カプチャーノ」、1周1秒の差をつけて飛ばす。2番手の#32「爆走あばれ馬ミニカ」はついていくのがやっと、ひき離されずにチャンスをうかがいたい。3番手の#210「ZEST ルブロスアルト」も同様。#12「KC テクニカアルトバンターボ」は本調子ではないようで、序盤苦しい戦い。

■中盤

中盤で自分のレースをしたのは#32「爆走あばれ馬ミニカ」、”気が付けばミニカ”とばかりトップに上がると、しっかりとその名をボードの一番上に刻みながらレースを引っ張る。下がったとはいうものの#101「BC工房カプチャーノ」も依然2位を追走。3番手には#210「ZEST ルブロスアルト」がつけ、序盤のトラブルから立ち直ってきた#12「KC テクニカアルトバンターボ」が速さを見せ始め、上位をうかがう。



2回目の王座を狙ったが2位 #210



速さでは文句ナシ！！ #101



序盤の出遅れが痛かった！ #12



オカPと今回はGT耐久へ出場のGT...
なんの密談か！？



ミニカを作り上げた手腕と熱意 見事！！

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■終盤

さあ1年間の集大成、#32「爆走あばれ馬ミニカ」は依然トップ。残り1時間の時点で、2位の#101「BC 工房カプチャーノ」とは3Lapの差を築く。1回のピットストップでは抜かれないマージンをもって終盤戦へ。

3番手にはさらに1Lap差で#210「ZEST ルブロスアルト」、逆転チャンピオンのためにはなんとしてもこの差を詰めたいところだが…序盤に出遅れた#12「KC テクニカアルトバンターボ」はガンガン追いついて2位グループとほぼ同一Lapに、優勝は厳しいとしても表彰台には上れるか。



■最終結果

最後までトップを守り抜いたのは#32「爆走あばれ馬ミニカ」、116Lapを走り見事総合でもトップチェッカー。初めてのタイトルを優勝で締めくくった。2位はトップに及ばなかった#210「ZEST ルブロスアルト」、年間ランキングも2位。3位は速さを存分に見せた、#101「BC 工房カプチャーノ」がポディウムに。そして最後は2位グループと同一Lapまで追い込んだ#12「KC テクニカアルトバンターボ」がわずかに届かず4位。



■総評

2011年の参戦より、マイナー車(失礼)ながら独自の道を歩んできた#32「爆走あばれ馬ミニカ」、2012年の新規格車初優勝などK耐久東海シリーズの歴史を創ってきた。その#32が2013シーズンに新たに栄冠を手にした。

新規格車ではHAのバンをベースにした#12「KC テクニカアルトバンターボ」も印象深い活躍。S耐の現役ドライバー&メカを招集し”本気で遊ぶ”を体現したチームは、他のアマチュアチームの良き目標ともなり東海シリーズのレベルアップにもつながるものと期待している。

さらには地元の勇として#210「ZEST ルブロスアルト」、ハイパワーFRを乗りこなし速さではぶつちぎりだった#101「BC 工房カプチャーノ」もあった。

そして昨年のチャンピオン#77「ナルミファクトリー」の復活も待たれる。待たれると言えば#14の「イシヤマレーシング」もどのクラスに出るのか気になるところである。



2014 シリーズ表彰

